

神嘗祭の奉納米 子どもと田植え

三重・JA
伊勢など

【三重・伊勢】伊勢神宮奉仕会青年部とJA伊勢は4月下旬、伊勢市の中居弘和さんが管理する水田で、伊勢神宮の神嘗（かんなめ）祭に奉納する米「コシヒカリ」の田植えを共催した。取り組みは本年度で35年目。



稲を植える参加者ら

当日は、市内のガールスカウトなどの児童と保護者ら合わせて約120人が参加した。地域の子どもたちに郷土や自然の恵み、食のありがたさを学んでもらおうと、同会青年部が参加を呼びかけた。JA職員が田植えを指導し、参加者らは手で1本ずつ丁寧に苗を植えた。JA担当者は「地域の伝統継承に協力できて誇りに思う」と話した。

植えた米は8月に刈り取り、10月の神嘗祭に奉納する。

青年部は、20年に1度の神宮式年遷宮に伴う民俗行事のお木引き行事、お白石持ち行事の伝統継承を目的に活動している。